

平成29年11月30日  
(2017年)

保護者の皆様

吹田市立西山田中学校  
校長 田中英世

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、10月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査結果の分析

#### 【国語 調査結果の概要】

〔国語A：主として知識〕

平均正答率は大阪府平均値を上回っているが、全国平均値をやや下回っているという結果であった。記述式の問題において、無解答率がやや高い傾向にある。

学習指導要領の領域である「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」は、大阪府平均値を上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は大阪府平均値と同程度である。「文章の要旨を捉える」「文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする」などの文章を読み取る問題は、大阪府平均値を上回っている。しかし、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」「古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える」などの語彙問題は、大阪府平均値を下回っている。

〔国語B：主として活用〕

平均正答率は大阪府平均値と同程度であるが、全国平均値をやや下回っているという結果であった。

「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」「目的に応じて必要な情報を読み取る」

といった問題では大阪府平均値を上回っているが、「表現の仕方を捉え、自分の考えを書く」「必要な情報を集めるための見通しをもつ」などの問題で大阪府平均値をやや下回っている。

#### 【国語科における成果と今後の改善点について】

今回の調査結果から「読む力」や「話す、聞く力」は概ね身につけていると考えられる。しかし、漢字や語句の力が比較的弱く、文章を書くことが苦手な傾向にあり、また文章を書く上でも、語句の使い方を工夫したり、構成を工夫したりする力が弱いことが明らかになった。今後の課題としては基礎学力の向上を図ることが重要である。そのために、普段から新聞や本などの活字を読む機会を増やし、分からない語句があれば必ず辞書を引いて意味を調べるなど、言葉を意識した生活習慣を身につける必要がある。それに加えて、1・2年生での学習内容を振り返る機会を多く持ち、基礎学力の定着を図る取り組みを進める。また、漢字を書く力が弱いので、基礎的な漢字を確実に身につけるよう、家庭学習においても、復習に重点を置いて取り組ませる必要がある。

#### 【数学 調査結果の概要】

##### 〔数学A：主として知識〕

平均正答率が大阪府平均値・全国平均値と同程度である。

学習指導要領の領域ごとにみると、「数と式」の領域において大阪府平均値を上回っているが、「図形」「関数」の領域では大阪府平均値と同程度であり、「資料の活用」においては大阪府平均値をやや下回っていた。「空間における直線と平面の平行について理解している」「円柱の体積を求めることができる」「与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している」については大阪府平均値を上回っているが、「錯角の意味を理解している」「一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、 $x$ と $y$ の関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる」「範囲の意味を理解している」「簡単な場合について、確率を求めることができる」については大阪府平均値を下回っている。

##### 〔数学B：主として活用〕

平均正答率が大阪府平均値と同程度であり、全国平均値をやや下回る結果であった。また、応用問題において、無解答率がやや高い傾向にある。

学習指導要領の領域ごとにみると、「数と式」「資料の活用」の分野では大阪府平均値をやや上回っているが、「図形」「関数」の分野では大阪府平均値と同程度である。「与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる」については大阪府平均値を上回っているが、「付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる」については大阪府平均値を下回っている。

#### 【数学科における成果と今後の改善点について】

授業の最初に行う復習プリントや、習熟度別少人数授業の特性を生かした「数と式」で行う計算問題の時間を多く設けるなど日々の活動を大切にしてきた。そのため、積み重ねてき

た基礎的な学習内容が定着してきているものと思われる。「関数」「図形」分野の知識の定着を図るとともに、「数学的な見方や考え方」をさらに向上させるため、グループ活動などの工夫を取り入れ、生徒が主体的に授業に参加できるよう取り組む。また、「めあて」の提示と、「まとめ」による振り返りを確実に実施し、一日の授業で学んだことを整理することで、得意な分野と苦手な分野を理解し、自らの理解度を把握できる授業を行い、学習意欲を高める授業づくりに取り組んでいく。さらに、今後も、数学に苦手意識を持つ生徒や、より発展した課題に取り組みたい生徒のため、テスト週間の朝や放課後に補習を行い、質問しやすい環境を作っていく。

## 2 生徒質問紙に関する調査結果の分析

本校の平均回答率と大阪府の平均回答率を比べて差異が目立つものとして

### 【調査結果】

#### [自分自身のことについて]

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある生徒が多い。
- 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思っている生徒が多い。
- 友達との約束を守っている生徒が多い。
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しくないと思っている生徒が多い。
- 授業で自分の考えや意見を発表することが難しくないと思っている生徒が多い。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができると思っている生徒が多い。
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している生徒が少ない。
- 読書が好きな生徒が少ない。

#### [家庭生活について]

- 家の人と学校での出来事について話をしている生徒が多い。
- 家の人とは、授業参観や運動会などの学校行事に来ると答えている生徒が多い。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている生徒が多い。
- 学校の授業以外に1日あたり3時間以上勉強している生徒が多い。
- 朝食を毎日食べている生徒が少ない。
- 新聞を読んでいる生徒が少ない。
- 毎日同じくらいの時刻に寝たり、起きたりしている生徒が少ない。

#### [学校生活・学習について]

- 学校で友達に会うのが楽しいと思っている生徒が多い。
- 学校の規則を守っている生徒が多い。
- 学校の授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思っている生徒が少ない。

- ・学校の授業で、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている生徒が少ない。

## 【改善・向上のために】

### 〔学校では〕

- ・個々の子ども理解に努め、良いところを認めるとともに、その良さが発揮できるような役割や場を意図的に作ることで自己有用感・自尊感情を育む。
- ・「朝食を毎日食べる」「早寝早起き」など基本的な生活習慣が定着するように小学校と中学校が連携して取り組みを進める。
- ・読書習慣の定着のために、小学校と中学校が連携して、「朝の読書」時間の工夫や生徒会・図書委員会の取り組みを進める。
- ・子どもたちが自分の考えを表現できる場を設定するだけでなく、目標が明確化された授業の中で、子どもたちが自分自身の学びや、友だちと協働して学ぶことの良さを実感できるよう授業改善に取り組む。
- ・「めあて」の提示、自分で考える時間や話し合う活動の確保、「振り返り」の実施等、授業の流れについて学校組織として統一したスタイルを確立する。

### 〔家庭では〕

- ・子ども自身に「主体的に活躍できる役割」を与えたり、場を設けたりして積極的にそれを認め、褒めることで自己有用感・自尊感情を育む。
- ・「朝食を毎日食べる」「早寝早起き」など基本的な生活習慣の定着を目指す。
- ・家庭学習については、家庭生活の時間の使い方を話し合う中で、最終的には子ども自身が取り組み方法について主体的に決められるようにする。
- ・社会の動きに関心を持てるよう、テレビのニュースを家族で見たり、時事問題を話題に家族で話し合ったりする。
- ・携帯電話・スマートフォンの使用については、子どもとよく話し合い、最終的には子ども自身が主体的にルールを決められるようにする。